

2024/7/16 (火)

朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 1章 20-23節 (新約聖書 62頁)

そこで、彼はそこをたち、父親のもとに行った。ところが、まだ遠く離れていたのに、父親は息子を見つけて、憐れに思い、走り寄って首を抱き、接吻した。息子は言った。『お父さん、私は天に対しても、またお父さんに対しても罪を犯しました。もう息子と呼ばれる資格はありません。』しかし、父親は僕たちに言った。『急いで、いちばん良い衣を持って来て、この子に着せ、手に指輪をはめてやり、足には履物を履かせなさい。それから、肥えた子牛を引いて来て屠りなさい。食べて祝おう。』

天の喜び

大変な資産家の父親に二人の息子がいました。弟は父親に財産の分け前を願い、父親は財産を分けました。弟は何もかもまとめて家を出て、遠い国へ行き、働きもせずお父さんの財産を無駄遣いしてしまいました。

その時代、親子は生涯同居するのが決まりです。まして父親が存命中なのに財産を分けること、さらに放蕩に身を持ち崩すことは村の入り口で石打ちの刑、死罪にあたることでした。では、なぜこの父親はこんなわがままの弟を赦したのでしょうか。

さて、時悪くその地方に飢饉が起こりました。彼は食べるにも困り果て、豚の世話をするはめになり、餌のいなご豆を食べたいほどでした。しかし食べ物をくれる人は誰もいません。弟は我に返り、父親に謝罪し、雇い人の一人にしてもらうため家に帰るのでした。

父親は毎日毎日村の入り口を眺めていました。ついにまだ遠くに
いる息子に気づき、自ら駆け寄り抱擁し、息子の言葉も遮って靴や
服を用意させ、祝宴を開きました。死罪の息子が、もう死んでい
てもおかしくないはずの息子が生き返ったのでした。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは放蕩息子の父親のような方です。あなた
は放蕩息子に報いとしてではなく、恵みとして喜びのうちに必要な
ものを与えられました。わたしたちもあなたから尊いいのちに恵ま
れ、一日一日、必要なもの、貴重な時間を与えられています。しか
しふり返ると、その恵みをどれほど無駄にしてきたことでしょうか。
それでもあなたはわたしたちに必要なものを与えられます。どうか
今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてく
ださい。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン